

# 西照寺

さいしょうじ



本堂外観



西照寺全景

西照寺は元々東京都板橋区中板橋にあった寺院です。昭和五十六（一九八二）年、当時の住職（釈正和）によって埼玉県東松山市大谷の地に移転・新設されました。

釈正和の出生は東京都調布市にある延浄寺（開基は西照坊）であり、亡母の願いであった埼玉への新寺建立を果たすため、西照寺を移転することにしたのです。寺院の静寂化と広大さを求めた住職は、数箇所の候補地があった中で、東松山市の大谷という場所を選定しました。選定には、こんなエピソードがありました。

東松山市大谷の当地を寺院移転の候補地とした際、細かな調査に入りました。すると当地にはもともと山伏が住んでいたことが判明しました。昔はお堂もあったようで、地元の方は当地を堂山と呼んでおられたのです。当地周辺は大谷と地名がつくほど、大きな谷がいくつもあり、中でも当地は高台に位置し周辺の森林が見渡せる場所として整っておりました。山伏はこの自然豊かな地が見渡せる大谷の当地を霊山の中心地として、長きに渡り修行をしてきたというのです。

古来より宗教的色彩が強い当地に感銘を受けた住職は、この地を念仏の新たな中心地とすべく寺院を建立することにしたのです。

また平成十七（二〇〇五）年には、境内の山林を拡張造設し新本堂を建立することとなりました。その際に地質調査が行われ、弥生時代から古墳時代におけるいくつもの住居跡や埋葬施設と思われる土坑など埋蔵文化財が出土したのです。古くから当地が要地として重要視されてきた事実を知ることとなりました。行政の指導の下、遺跡保護の施工を整え、ここに西照寺の本堂が建立されております。このような埋蔵文化財の上に建立された本堂の完成を機縁として、以後西照寺では毎年七月に念仏会と称する法会が修行されることとなりました。念仏会は、遙か古代より宗教的要地として受け継がれ

てきた当地に、ご本尊である阿弥陀如来をお迎えできたことを喜ぶ法会として勤められております。



本堂内陣